

「コンパクトなまちと公共交通のあり方に係る住民説明会」開催概要

1 開催目的

6月4日から7月3日の期間でパブリックコメントを実施する周南市立地適正化計画及び周南市地域公共交通網形成(再編実施)計画で掲げる人口減少社会に対応した将来のまちづくりの方向性、考え方について、市民の意見等を直接聴取する。

2 説明会対象区域

都市計画区域に限らず、市内全域を対象に実施する。具体的には、中心市街地周辺(大津島含む。)、市街地東部(久米、櫛ヶ浜、鼓南)、市街地西部等(富田、福川、菊川、和田)、周南西部(夜市、戸田、湯野)、周南東部(熊毛地域)、周南中部(須々万、長穂、向道、中須)、周南北部(鹿野地域)の7箇所を各1回。

3 開催日程

6月18日～6月27日のうち、7日。19時から1時間半程度。

4 説明内容(30～40分)

- ・ 周南市立地適正化計画(改定素案)の概要
- ・ 公共交通網の再編について

5 参加者

延べ86人。主催者側参加者は、都市政策課、(株)防長交通。

6 主な意見

立地適正化計画に関すること

Q：国道315号沿い(岐山地区)の地区は居住促進区域に入らないのか。

A：国道315号の沿線については、災害リスクや公共交通の利便性、都市構造評価に加え、現地確認を行い、地区内に狭隘道路が多いことや河川により市街地が分断されることなどから、人口密度を高める面的なエリアではないと判断し、区域から除外している

Q：土砂災害対策工事が完了した場合、区域の見直しがされるのか。

A：計画はおよそ5年ごとに見直しを行う予定。対策工事が完了し、土砂災害警戒区域等の見直しされれば、区域の見直しもあり得る。

Q：現在居住している市民がこの計画に基づいて何をしたらいいのか分からない。

A：人口減少社会に対応した20年先を見据えた計画の方向性、まちづくりの考え方だと理解してほしい。ライフステージに合わせて、居住地選択の際に促進区域内を選んでいただけるよう、計画を推進していく。

Q：庁内の関係部署との連携はとれているのか。

A：計画の検討にあたり、内部は庁内検討会議、外部の関係団体は都市再生推進協議会を立上げ、課題を共有しながら検討を進めている。

- ・ 若者呼び込む施策を積極的に検討すべき。
- ・ 公共交通の利用促進を図るために、ダイヤや路線網の見直しだけでなく、バスや電車に乗る目的をまちづくりの中で創り出すことも必要。

※計画改定素案を変更するような意見はなし。

公共交通に関すること

- ・ 民間事業者は会社経営の側面もある中で、路線網の見直しに対し、民意がどこまで反映してもらえるのか。
- ・ 鉄道とバスの接続について、密に連携してほしい。
- ・ 路線の見直しにあたり、近隣市との連携はどうか。
- ・ 市街地循環線のような先進的な取組みは、実証運行終了後も継続してほしい。
- ・ 外出機会の創出が出来れば、まちの活性化に繋がると思うが、バス等利用運賃の助成などの施策は考えているか。
- ・ 免許返納者に対し、バス等利用運賃の助成は考えているか。
- ・ 地域や交通事業者に対して、コミュニティ交通の導入を行政サイドから積極的に働きかけた方が良いのではないか。
- ・ コミュニティ交通の担い手の確保など、持続性をどう考えているか。

その他

- ・ 周南団地は、地域全体が高齢化し寂しい。
- ・ 都市機能誘導方針に「将来を担う若い世代の就労・結婚・妊娠・子育てを支援する施設やサービスを充実する。」と定めがあるが、若い世代の就労支援とは具体的にどのような取組みをしているのか。